

隊友会東播支部の皆様におかれましては輝かしい新春をおむかえのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中の支部活動への積極的参加とご活躍に対し感謝申し上げます。

昨年も、日常生活にコロナウイルスによる影響が極めて大きくて、人と人が安心して合う・話すこともままならない状況が続きました。そのような中ですが、東播支部は屋外で行う行事は全て実行し多数の参加をいたしました。その熱意と行動力のお陰と感謝申しあげます。

ワクチン接種のお陰かコロナ患者の発生もようやく下火になってきて、新しい年はようやく以



東播支部長
石田真一

新年のご挨拶

東播支部だより

第76号
発行所
兵庫県隊友会
東播支部
0794-23-9666
発行責任者
鳴瀬茂樹



【支部及び関連事業実績】

◆令和3年

◇4月12日自衛官候補生入隊式
中止、関係者への文書配布

◇5月22日 支部総会 中止

◇5月22日

サツマイモの植付

隊友会東播支部は5月22日（土）10時から12時の間で、滝野体育センター前の休耕地において、石田支部長他20名の会員

の参加を得て、長さ約20mで5畝にサツマイモの苗を450本植付しました。

兵庫県は緊急事態宣言発令中まで借用させて頂いた場所を地主が宅地として売却された為に新たな場所の確保から準備を進めることとなりましたが、大山理事の計らいで休耕地となつている田んぼの跡地を借用する事が出来ました。

天気も良く和氣あいあいとした中で植付を終了することができました。今後のコロナウイルス感染症の動向にもよりますが、東播支部唯一の現職隊員との交流事業として、大きなサツマイモを育てていきます。記事編集 細貝事務局長

このような環境の中、東播支部としては今年も会員相互の親睦・連携を更に図るとともに現職隊員への協力・支援事業を充実させるよう諸活動の検討・改善を考えています。今年もご家族の皆様のご健勝とコロナ禍を克服してよい年にできるよう祈念しますとともに、会員皆様のご協力をお願いしまして挨拶と致します。



- ◇5月29日 自衛官候補生修了式：来賓を招かずに行
- ◇5月30日 青野原駐屯地創設45周年記念行事：中止
- ◇6月13日 県隊友会定時総会：中止、文書配布
- ◇7月1日 新隊員後期教育入隊式：来賓を招かずに行
- ◇7月3日 支部理事役会
- 令和3年7月3日10時から青野原駐屯地本部隊舎第1会議室において今年度初の支部理事役会を開催して会議を開催しました。
- 小林様の参加目的は、現職自衛官の転勤に伴う隊友会の引越支援事業の説明でありましたが、併せて、県隊友会の総会が中止となり本部表彰及び県の会長表彰が行えなかつたことからそれぞれの賞状を持参して頂きましたので、事前調整はしておりませんでしたが、本部表彰受賞者である堤理事、県会長表彰受賞者である細貝事務局長に賞状の伝達を行つて頂きました。
- 東播支部においても、支部総会開催できず見送つていた原田理事への表彰式を行いました。
- その後に小林様から引越支援事業についてご説明と参加理事役員からの質問に分かり易く回答頂き、本事業に対して安心して取組むことが出来る体制作りを推進することが出来ました。

（青野原演習場の慰靈碑は姫路駐屯地から碎石等を積んで演習場整備作業に向かう際トラック横転による事故で亡くなられた6名の隊員を追悼したもののです。）

◇7月6日 青野原駐屯地表敬訪問
△7月25日 慰靈碑清掃奉仕及び慰靈行事

△7月25日（日）支部長 石田真一他26名をもつて青野ヶ原演習場に建立されている殉職隊員慰靈碑の清掃・慰靈行事を行いました。

△7月25日（日）支部長 石田真一他26名をもつて青野ヶ原演習場に建立されている殉職隊員慰靈碑の清掃・慰靈行事を行いました。



会議終了後の感想からは、「非常に活発な会議をされており、頼もしさを感じました。忘年会のお話も出ており、是非参加して皆さんとお話をしてもみたいですね。」と賛辞を頂くことが出来ました。今後も支部長を中心として、理事役員全員で盛り上げていけるよう努力することは勿論のこと、県隊友会との連携も今まで以上に密接にすることで、抜け目のない支部の活動が出来るのではないかと感じることが出来た貴重な会議の場となりました。事務局長 細貝 寛徳

慰靈行事終了後、本年度総会を開催することが出来なかつたことから、兵庫県隊友会会長表彰を伝達するとともに、東播支部長表彰を举行し、受賞会員の長年にわたりました。事務局長 細貝 寛徳

当日は朝5時30分から草刈り機や剪定鋸により慰靈碑周辺の除草及び垣根の剪定を行い、その後、お寺の住職で支部理事役でもある高倉様に読経していただき会員の焼香も行い無事慰靈行事を終了しました。

慰靈行事終了後、本年度総会を開催することが出来なかつたことから、兵庫県隊友会会長表彰を伝達するとともに、東播支部長表彰を举行し、受賞会員の長年にわたりました。事務局長 細貝 寛徳

飛行場跡地は平成28年6月まで、青野原駐屯地業務隊が管理する演習場として各種訓練を行つてきた場所であり、東播支部の会員は少なからず思い出があります。また、海軍航空隊の飛行場滑走路のほとんどが今日まで現存する旧軍史跡は国内にはないため、現在史跡公園として加西市をあげて整備を行つています。

当初、隊友会東播支部は青野原駐屯地業務隊が管理する演習場に関する慰靈碑等の清掃の一環で始めた事業でしたが、加西市に払い下げられて以降も、戦没者追悼の志を胸にこの祈念碑周囲の清掃は継続して行つています。

ここで簡単に姫路海軍航空隊鶴野飛行場、川西航空機姫路製作所鶴野工場跡を紹介します。

第二次世界大戦の戦局が悪化しはじめた頃、優秀なパイロットを養成するため、昭和17年に着工し、昭和18年に完成した旧日本海軍の飛行場でした。

川西航空機鶴野工場では、姫路製作所で生産された局地戦闘

「紫電」「紫電改」が分解移送され、それぞれ486機、44機が鶴野で組み立てられました。昭和20年には神風特別攻撃隊「白鷺隊」が編成され、沖縄戦のために4月6日に初陣出撃し、前途有望な若者が大空に散つていきました。終戦までのわずか2年に満たない時間の中で、国防の為青春をかけた多くの若者の姿があつたのです。

その歴史を後世に語り継ぐ役割として鶴野平和祈念の碑苑保存会（2016年8月一般社団法人化）が4つの活動方針『①白鷺隊』戦没者等の慰靈顕彰、②鶴野飛行場に関する調査研究、③鶴野飛行場に関する記録の保存と継承、④（仮）加西市鶴野ミュージアムへの支援』をもとに、以下の取り組みをおこなっています。

1999年10月に祈念碑の建立、毎年姫路海軍航空隊関係者を招聘して祈念祭を開催（節目の年には、海上自衛隊阪神基地隊及び青野原駐屯地第8高射特科群から支援も行われてきました）。2014年10月に資料館が開設され、現在、震災用備蓄倉庫に紫電改の実物大模型も展示されています。またミュージアム建設検討委員の方々により訪れる方にに戦争遺跡のありについてガイドも行われています。



東播支部は、現在計画されています。特に平和の願いを後世に伝えるため、中学生等の見学学習ガイドを積極的に行なわれています。

東播支部は、現在計画されています。特に平和の願いを後世に伝えるため、中学生等の見学学習ガイドを積極的に行なわれています。

建設や平和祈念碑の移設が完了したならば、新型コロナの状況を鑑みながら令和4年度のイベントの一つとして、姫路海軍航空隊鶴野飛行場見学を計画し、お祝い・確認したいと考えています。

事務局長 細貝 寛徳

◇8月5日 駐屯地盆踊り大会 来賓を招かずに花火の実施

◇9月28日 新隊員後期教育修了式

10月23日 サツマイモ収穫祭 東播支部会員と現職隊員・家族との交流事業

10月23日 東播支部会員と現職隊員・家族との交流事業

（土）朝9時から加東市滝野の借用地においてサツマイモの収穫祭を行つた。

当日は、関東では冷たい北風が吹いたようですが、加東市は天候に恵まれ行事を開催することができました。

参加者は石田支部長他隊友会会員23名、現職隊員28名・隊員家族55名となり、合計106名の参加者で盛会のうちに終了することができました。

参加した子供達が驚くほどの大きな芋も多く出来ており、夢中で芋ほりを楽しんでいただきました。

今年は、借用地の一部で隊友会会員が里芋を栽培しており、その収穫も併せて行い、参加した支部会員・現職隊員に配布して喜んでいただきました。

今年は昨年までの場所が借りられず、急遽場所探しの結果、広い休耕地に場所を変更し、準備から大変苦労しました。追いか打ちをかけるように3度のイノシシ被害を受けました。急速イノ



シシ除けの柵を設置、定期的な除草、つる上げ作業を近隣の会員が主体となって行い何とか収穫に至りました。

東播支部にとつては年に一度の現職隊員との交流事業であり、隊員・家族の中には毎回楽しみにしてくれる者も多く、年々参加者が増えている状況です。

また、今回の参加者に今年度で退職する現職隊員も含まれており、隊友会を希望するよう勧誘も行うことができました。支部としてこの行事を今後も主要行事の一つとして継続していくたいと思います。

事務局長 細貝 寛徳



◇11月7日 小野市 国宝 浄土寺 歴史ウォーキング
（日）10時から山口理事役の計画で兵庫県小野市にある国宝淨土寺の見学を石田支部長他16名が行いました。

秋晴れの晴天の下、ボランティアガイドの内藤様の説明を受けながら約八百年前の鎌倉時代初めに建立された淨土堂（国宝）は桁行3間（約18メートル）、



この寺院の特徴としては、東向きのお堂で屋根が直線的で外観は低いように感じられますが、堂内は天井を張らない化粧屋根となつており、堂内の中央部に名仏師快慶作の巨大な三尊立像が立つております。

この寺院の特徴としては、東向きのお堂で屋根が直線的で外観は低いように感じられますが、堂内は天井を張らない化粧屋根となつており、堂内の中央部に名仏師快慶作の巨大な三尊立像が立つております。



背面の戸は格子戸で、夏場は16時頃、冬場は15時頃に西日が堂内に光が反射して巨大な三尊立像が雲に乗つて浮かび上がっているように見えることから西方淨土から迎えに来る「御来迎」の姿を実際に見せようとしています。その最高の時期が彼岸のころであると伺いました。

また、敷地内には鐘楼、淨土寺の鎮守社である八幡神社、墓師堂、開山堂があり、裏の山手には約20分から30分かけて回ることができる四国八十八か所巡り（お地蔵様）を楽しむことができます。

寺院散策等に興味がおありの方は是非足を運んで見られてはどうでしょうか。

◇12月5日 第8回小野ハーフマラソン大会支援

大会会長の元阪神赤星氏や大会アドバイザーの狩野氏、チャリティーランナーとして阪神タイラースの原口選手、俊介選手、藤本コーチ、濱中氏、オリックスから中川選手が、2020年蓬萊アナウンサーの司会の元、大会を実施できませんでしたが、新しく出来上がつた市役所も威風堂々としていてその前をスタート・ゴールとして、盛大に開催されました。当日の気温は10度以下で天気も良く、風もなく、絶好のマラソン日和となり、ハーフ参加者は約3600名とコロナの影響もあり定員を少なくしましたが、小学生・一般の1・5Km、中学生・一般の3Kmと盛会のうちに終わったものだと思います。

蓬萊アナウンサーの司会の元、大会会長の元阪神赤星氏や大会アドバイザーの狩野氏、チャリティーランナーとして阪神タイラースの原口選手、俊介選手、藤本コーチ、濱中氏、オリックスから中川選手が、2020年12月5日小野市役所前を発着とする第8回小野ハーフマラソン大会に石田支部長他15名がスタート・ゴール周辺のコースへの応援者侵入防止、ランナーのスタート位置等での走者間隔の1m保持、ハーフ完走者等へのマスクの配布、完走者へのドリンク配布の支援を行いました。



13時の支援終了まで立ちっぱなしで、ランナーの応援等もしながら結構疲れを感じましたが公益社団法人として、隊友会の知名度の向上は元より、地域の大会を盛り上げる事、大会に参加したランナーに気持ちよく帰つていただけること、来年もまた参加してもらいたい気持ちで支援しました。

また、来年の開催が楽しみなところではありますが、例年どおりの支援者では高齢化も進み、今後は若い会員の参加も促して行きたいと考えています。

